

百里初午祭へのメッセージ

百里弁護団 内藤 功

本日の初午祭の準備、設営に当たられた地元の皆さんに心から感謝申し上げます。また、平和公園と9条の丘の除草作業、樹木の選定作業、建物の補修作業など日頃の維持・管理をしてこられた皆さんに心から感謝申し上げます。そして、本日早朝より県内外からお集まりの皆さん、ありがとうございます。

ことは、戦後80年、被爆80年です。80年前の1945年8月15日正午、日本国民は戦争終結を告げる昭和天皇のラジオ放送を聞きました。この放送のわずか数時間前、百里基地からは海軍航空隊の特攻隊が出撃し、そのうち8機16人の若者がついに帰ってきませんでした。

戦後、日本国憲法9条のもと、もう基地はいらない、滑走路や軍事施設をこわして、農地に変えて食糧をつくれという県や国の命令で県内外や国外からの引揚者の方々が開拓、農作業に苦勞されてきました。

ところが、1954年、米空軍の指導の下、航空自衛隊が創設され、1956年以降、百里を再び戦闘機基地に変えるため、農地買収工作が始まり、多くの仲間が去っていきました。しかし「カネをいくらつまれても、戦争のために、土地は売りません。平和のためならタダであげます」という気骨の方々は、反対同盟に団結してたたかってきました。百里弁護団も、ともに「自衛隊は憲法違反」という主張を正面に据えて31年間最高裁まで裁判闘争をたたかいぬきました。

この力におそれをなし、基地のド真ん中の平和公園、平和稲荷の土地を避けた「くの字」型の誘導路を造らざるをえなくなりました。伊藤千尋さんは、昨年2月11日の9条の碑除幕式にメッセージを寄せられ「戦争の象徴たる基地の真ん中に平和の象徴たる9条の碑がそびえることは、すこぶる痛快ではありませんか」と激励して下さいました。射撃場山から基地を見下ろす「自衛隊は憲法違反」の大看板。そして、この9条の碑は未来永劫に平和の礎になるものと確信します。

いま石破自民党政権は、「裏金問題」で国民の激しい怒りの前に、少数与党政権に追い込まれながらも依然として日米同盟にすがりつき軍備拡大の暴走を続けています。百里基地においては、米軍機に加えフランス、ドイツ、インド、オーストラリア、カナダなどの空軍機との共同訓練が行われています。新たな滑走路の増設など基地機能の強化が始まっています。戦闘機に長距離ミサイルを装備するなど敵基地攻撃能力の戦力化が始まっています。米軍と一体の海外侵略のために航空自衛隊員の尊い生命を犠牲にしてはなりません。

本日の初午祭で、大いに交流し、平和への決意を固めあいましょう。

ご盛会を願って、ごあいさつと致します。